



昭和大学  
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美  
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 秋らしくなってきました

歯内治療科 診療科長 鈴木 規元

10月に入り、日中はまだまだ暑い日もありますが、朝晩はすっかり涼しくなり、秋の気配が色濃くなってきました。秋晴れの日も多くなり、普段であれば絶好の行楽シーズンとなるところですが、なかなかそうもいかない世の中になってしまいました。

新型コロナウイルス感染症の東京都の新規感染者数は、最近(10/7現在)顕著な減少傾向を示しています。その原因は定かではありませんが、これが一筋の光明であることを願うばかりです。とは言っても、感染対策はこれまで通りしっかりと続けていかなければなりません。当院では、飛沫が発生する処置では口腔外バキュームを使用し、歯の切削などによって飛散する唾液の空気中への拡散防止を図っていますが、さらに、最近その有用性が見直されている処置の一つに、ラバーダム防湿(次頁写真参照)があります。

ラバーダム防湿は、私たち歯内治療科が専門としている根管治療においてはとても

重要な処置です。ゴム製のシートを金属のバネを用いて歯に装着し、治療する歯だけをシートの上に出して治療を行うことにより、治療中に唾液が根管内に入ることを防ぐことができます。根管治療は根管内から細菌を除去する治療ですので、細菌の宝庫である唾液が根管内に入らない状態で治療をすることはとても大切なのです。その一方で、口はラバーシートで覆われ、切削はシート上で行われますので、切削による唾液の飛散も防ぐことができます。そのため、このコロナ禍での感染対策としても注目され、根管治療以外にも積極的に用いられるようになってきました。一石二鳥のラバーダム防湿、もちろん使用できる治療は限られてはいますが、なかなか有用な処置法です。



一日の気温差が大きい時期です。体調を崩されぬようご留意されつつ、秋を満喫していただければと思います。



- P1 巻頭言 秋らしくなってきました
- P2 診療科紹介 歯内治療科
- P3 部署紹介 放射線技術室
- P4 お知らせ インプラント治療に関する説明会  
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

## 診療科紹介 歯内治療科

歯内治療科 診療科長補佐 浦羽 真太郎

私たち歯内治療科は歯科病院4階西診療室内にあり、診療科の名称のとおり「歯内治療」を専門に行っております。

例えば「骨」の内部に「骨髄」があるように、「歯」の内部にも「歯髄（しずい）」という組織があります。一般的に「歯の神経」と呼ばれているのは、この歯髄です。むし歯が進行して歯髄に到達すると、歯髄が炎症を起こし「歯髄炎」という強い痛みを生じる状態となります。またそこからさらに感染が進むと、炎症は歯根の外へ広がり、「根尖性歯周炎」という状態になります。歯内治療とは、歯の内部に侵入した細菌や汚れなどを除去して、「歯髄炎」や「根尖性歯周炎」の改善・予防を行う治療です。歯を残すための基礎工事と言い換えても良いかもしれません。最終的に詰め物や被せものを入れて噛めるようにした歯を、長期にわたって機能させていくためにとても重要な処置であるをご理解いただければと思います。

歯、とくにその内部は皆さんが思っている以上に複雑な形をしています。そのため歯内治療では、非常に精密な処置が求められま

す。私たちは、歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）を臨床に積極的に活用して診療を行っております。マイクロスコープを使用することで、肉眼では確認できなかった歯の内部構造や感染源を拡大下で明らかにし、歯を保存できる可能性を高めると同時に、歯根破折（歯のひび）などの抜歯が適応となる疾患を早期に発見し、無駄な治療を続けることを避けられるようにもなりました。また、治療時にはラバーダム防湿を行い、歯の内部へ唾液が入ることによる新たな細菌感染を防止しています。歯内治療の専門性は近年ますます高まっており、通常の治療では治りが悪い歯や処置が困難な歯を中心に、ご開業の先生方からは多数の患者さんをご紹介いただいております。

一本一本の歯を、しっかりと残せるように診療に従事しておりますが、その反面、一回の治療時間が長くなってしまふ、予約が取りづらいなど、ご不便をおかけしていることもあるかと思ひます。しかし、これから歯を永く安心して使っていただくために、当科での治療にご理解をいただければ幸いです。



ラバーダム防湿



マイクロスコープで歯の内部を拡大しながら治療



歯内治療科外来

## 部署紹介 放射線技術室

放射線技術室 係長 武 俊夫

昭和大学歯科病院放射線技術室では、一般的検査として歯科パノラマ撮影や歯科デンタル撮影、特殊検査としては歯科用Cone-BeamCT（以下：CBCT）や医科用CT（multi-detector raw CT、以下：MDCT）などの業務を行っております。所属している診療放射線技師は5名で昭和大学病院と連携して業務しております。

放射線技術室は、常に安心して安全な歯科医療をめざし日々努力をしております。昨今コロナ禍に於いて医療現場の感染対策が非常に重要視されてきております。当院でも馬場病院長のもと「感染に強い病院づくりを目指そう」と、感染対策チームを中心に取り組んでおります。当部署も各科から依頼される沢山の検査に対応していかなければならないため、感染対策チームと連携をとり患者さんが安心して検査を受けられるよう日々努力をしております。検査までお待ちいただくことが多々あると思いますが、ご理解をお願いいたします。

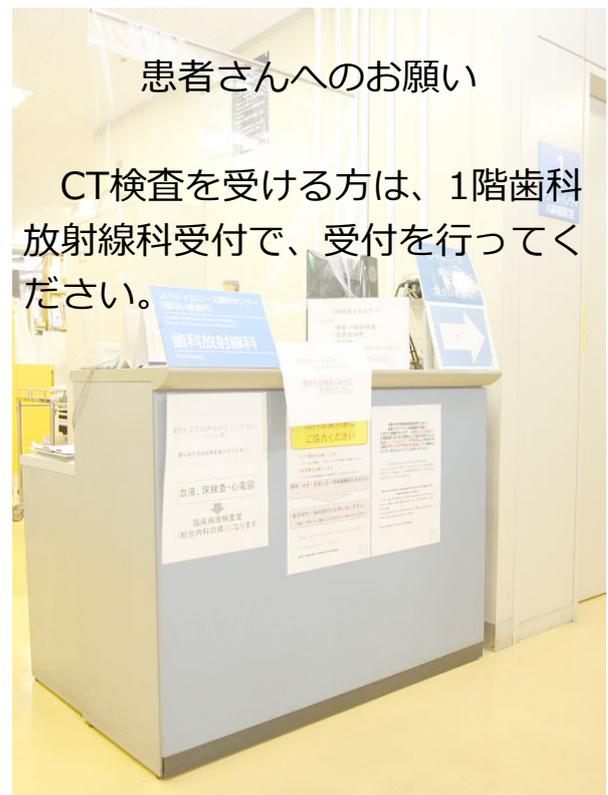
その他、放射線技術室では、地域歯科医院から依頼された検査も多く受けております。



診療放射線技師

特に多い検査は頭部規格撮影（セファロ撮影）です。また昨年4月よりMDCT（Revolution・ACT）が更新されました。こちらも他施設からの依頼検査を受けております。ご依頼の場合は地域歯科医療連携室へお問い合わせください。

診療放射線技師の業務は検査を施行するだけではなく、検査の説明や放射線被ばくの管理・相談等も専門とさせていただいております。2020年に日本の診断参考レベル2020年版（National diagnostic reference levels in Japan 2020：以下DRL）が更新されました。そこでは歯科領域の被ばく線量の詳細が報告されています。当放射線技術室もDRLに準拠して検査を実施しております。被ばくに関してご不明な点がございましたら、ご相談ください。可能な範囲で対応させていただきます。



お知らせ インプラント治療に関する説明会を開催いたします

事務課



## 患者さん対象 インプラント治療に関する説明会

お問い合わせが多かったため急遽開催いたします！

日時：**10月27日(水) 13:30~14:30**  
**11月24日(水) 13:30~14:30**  
**12月22日(水) 13:30~14:30**

会場：昭和大学歯科病院・2号棟1階第1会議室

※当日直接会場へお越してください。

講師：インプラント歯科 診療科長 宗像 源博

参加費：無料 先着15名まで

～お願い～

新型コロナウイルス感染症予防のため、入室前に体温チェックを行い、37.5℃以上体温がある場合や体調不良の方は当日の参加をご遠慮いただきます。皆様の安全確保のため、ご協力をお願い致します。

※今後の開催予定は随時ホームページに掲載します。



インプラント歯科 宗像源博



お問い合わせ

昭和大学歯科病院事務課管理係

住所：東京都大田区北千束2-1-1 TEL：03-3787-1151 (代)

### 編集後記

9月30日をもって緊急事態宣言が終了し、新型コロナウイルス感染症の新規感染者も大幅な減少を見せています。このような状況だと緊張の糸がきれ、体調管理などおろそかになりかねませんが、10月になっても30℃近くなることもあり、寒暖差も激しいため、気を緩めず自分にできる体調管理を万全に行い、日々の生活に向き合いたいと思います。

(T.T)

